

## 平成22年度 民間住宅ローン借換の実態調査

### 1. 調査の概要

現在、民間住宅ローン借入があり、2009(平成21)年11月～2010(平成22)年10月に借換をされた方を対象として借換による住宅ローンの金利タイプの変化、借換理由などの事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(10/19～11/1)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:974件。

### 2. 調査結果の主なポイント

#### (1) 借換後の金利タイプは、約半数が「変動型」

- 借換後の金利タイプは、「変動型」が約半数(45.7%)を占めている。  
(c.f. 「全期間固定型」16.5%、「固定期間選択型」37.8%) <p.2>
- 調査対象期間を通じた借換後の金利タイプをみると、3月以降「変動型」の利用割合が常に「固定期間選択型」を上回る水準で推移している。 <p.3>

借換後は、「変動型」利用が45.7%と約半数を占めている。  
金利先高感が薄れていく中、相対的に低利な「変動型」利用が高い水準で推移している。

#### (2) 年齢が高くなるほど、「変動型」への借換割合が高まる。

- 借換後の金利タイプを年齢ごとにみると、年齢が高くなるほど、変動型への借換割合が高くなっている。 <p.5>

#### (3) 金利低下と返済額減少が借換理由の大半

- 借換理由は、「金利が低くなるから」が63.3%、「返済額が少なくなるから」が53.9%と過半を超えている。 <p.6>